

2020 年 12 月 9 日

日本脳卒中学会一次脳卒中センター御中

厚生労働科研「脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の
検証のための研究」および日本脳卒中学会急性期連携医療プロジェクト

問い合わせ先：stroke.res.group@gmail.com

依頼内容

2019, 2020 年の脳卒中診療実績に関する調査

- 1) 添付のエクセルファイルへの記入
- 2) グーグルアンケートにアクセスし、エクセルファイル（アンケート A）のアップロードと回答
診療科ではなく施設単位でご報告をお願いします
グーグルアドレスのない場合に、ファイル添付ができないと指摘を受けています
メール添付で stroke.res.group@gmail.com にお送り下さい
- 3) グーグルアンケートにアクセスできない時は、エクセルファイル（アンケート B）をメール
添付で stroke.res.group@gmail.com にお送り下さい

Google フォーム URL：<https://forms.gle/AGaE1exLQ4MiJTTHA9>

入力期限：2020 年 12 月 15 日までにまずご回答をお願いいたします

なお、12 月の状況を反映したファイルを年明けにお送りいただきますようお願いいたします。

拝啓 先生にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

急性脳梗塞に対する再開通療法の有効性が確立し、先行研究班（脳卒中の急性期診療体制における施設間連携体制構築に関する研究）では、いわゆる drip & ship を含む転送による機械的血栓回収療法の実施が安全に行われていることを示しました。2019 年には日本脳卒中学会の脳卒中センター認定事業が始まったのですが、2020 年になり、突然やってきた COVID-19 の蔓延が我々の日常生活、脳卒中診療に大きな影響を及ぼしました。

この度、厚生労働科学研究「脳卒中の急性期診療体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究」班を組織し、3 年間活動することになりました。本研究は、日本脳卒中学会の脳卒中センター認定が開始されたことによる、地域における脳卒中急性期の診療体制の現状、課題及びその解決策を明らかにすることです。研究班の発足と前後して拡がった新型コロナウイルス感染症は、脳卒中診療にも大きな影響を及ぼしました。そこで研究班では、2019 年と 2020 年の診療実績の変化と感染症の影響をまず調査し、その結果を検討することにしました。

なお、先行班が蓄積した 2016 年から 2019 年の機械的血栓回収療法に関する施設間連携の現状把握は貴重なデータとなっていますので、本研究班でも継続しようと考えています。

ご多忙のところ恐縮に存じますが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

脳卒中の急性期診療体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究班

日本脳卒中学会 急性期連携医療プロジェクト 座長

主任研究者 神戸市立医療センター中央市民病院 坂井信幸

日本脳卒中学会 COVID-19 対応プロジェクト 座長 平野照之

日本脳卒中学会 理事長 宮本 享